



四つ葉のクローバー

発行所

桐生厚生総合病院 中央検査部

責任者 吉田カツ江

理念 臨床検査の質的向上と信頼性の確保

2011年12月発行

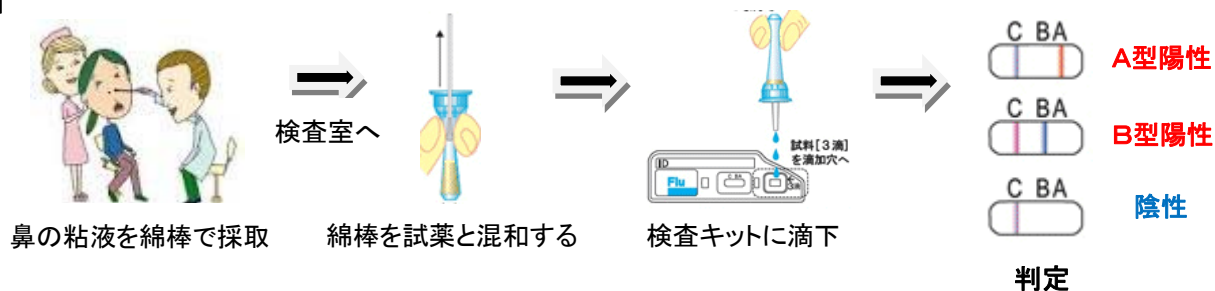
冬季に流行するウイルス・細菌感染症とその検査

冬は寒く、また乾燥するため、鼻、口、のどの粘膜にウイルスが感染しやすく「かぜ」をひきやすくなります。「かぜ」の原因の90%はウイルスの感染ですが、その数は200種類以上あるとされ、症状も様々です。しかし、「かぜ」とよく似た症状でも、感染力が非常に強く、集団感染を引き起こしたり、重症化する危険のあるウイルスは迅速な診断が重要となります。今回は、冬季に流行するウイルス・細菌感染症と当院で行っているウイルス（細菌）迅速検査の一部についてご紹介します。

インフルエンザウイルス感染症

インフルエンザウイルスは、冬季に流行する代表的なウイルス感染症です。ウイルスには、A型・B型・C型の3種類がありますが、冬季に流行するのはA型・B型ウイルスで、A型は変異を起こしやすく、大流行を引き起こします。この時期よく聞かれる「Aソ連型」や「A香港型」、一昨年騒がれた豚由来の「新型インフルエンザ」もA型ウイルスの変異したものです。一般的には、最初にA型が流行し、その後B型が流行する傾向が見られます。症状は急速な発熱、頭痛、全身倦怠感、関節痛などが特徴的ですが、嘔吐や下痢などの胃腸症状を伴う場合もあります。感染力が強く、高齢者や妊婦、乳幼児などは重篤な合併症を引き起こすこと、「タミフル」や「リレンザ」などの治療薬が有効であることから迅速な診断が重要とされています。

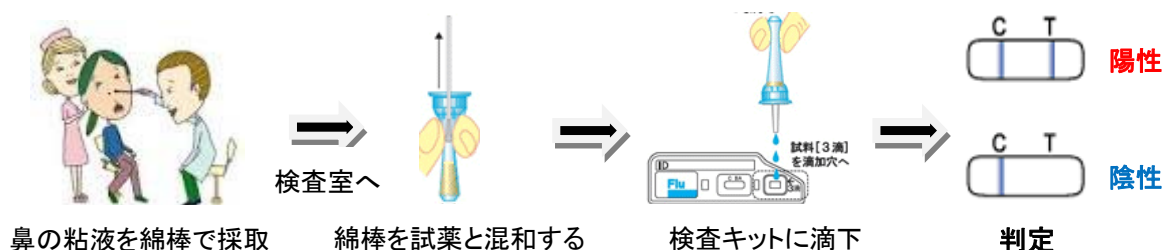
【検査】



RSウイルス感染症

RSウイルスは、冬季に流行し、乳幼児に重篤な気管支炎、肺炎などの呼吸器疾患を引き起こすウイルスです。感染力が非常に強く、生後1年間に約70%の乳児が感染し、そのうちの30%に気管支炎、肺炎を起こします。有効な治療薬はなく対症療法（ウイルスが体からなくなるのを待つ）となりますが、周囲に感染を拡げない為にも迅速な診断が重要とされています。

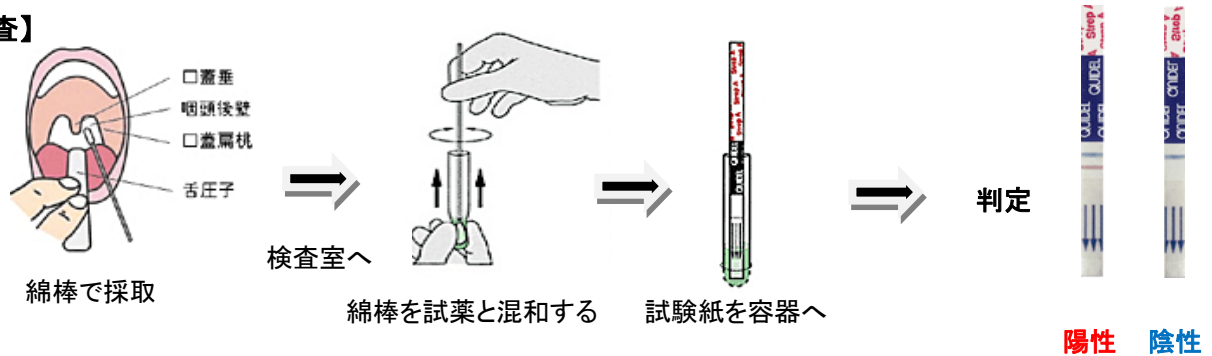
【検査】



溶連菌(A群溶血レンサ球菌)感染症

溶連菌は、冬季に流行し、発熱、のどの痛み、頭痛などの症状を引き起こします。小児期～学童期に多くみられ、成人には少ないとされています。抗生物質を2～3日服用すれば症状はおさまりますが、小児では稀に、溶連菌感染後に急性腎炎を引き起こす事があり、迅速な診断が重要とされています。

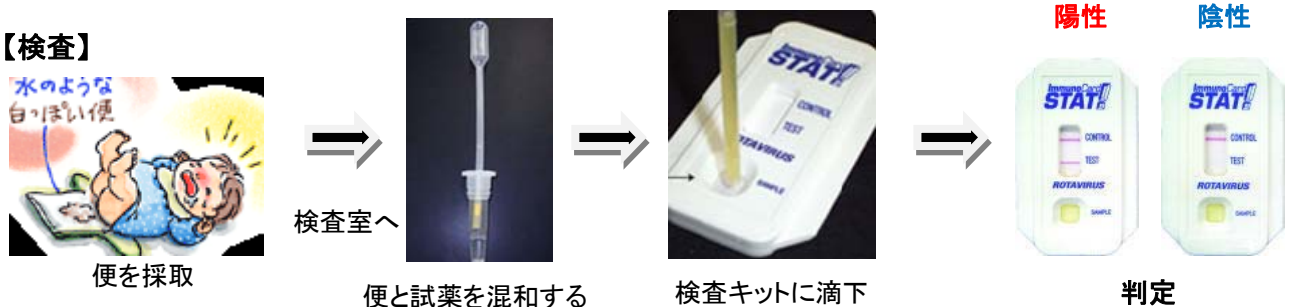
【検査】



ロタウイルス感染症

ロタウイルスは冬季下痢症とも呼ばれ、母親からの抗体がなくなる6ヶ月～2歳半位の乳幼児に好発する感染力の強いウイルスです。激しい嘔吐、下痢が特徴で、ウイルスの影響により便に色をつける胆汁がうまく分泌されない為、米のとぎ汁のような水様便が何度もでます。有効な治療薬はなく対症療法となります。感染力の強さから集団発生を起こすことがあるため迅速な診断が重要とされています。

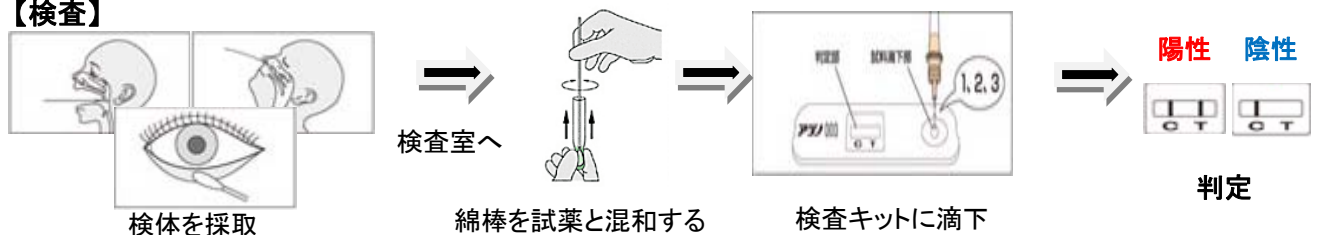
【検査】



アデノウイルス感染症

アデノウイルスは、様々な症状を引き起こす季節性のない急性感染症で、51種類のタイプがあると言われています。主な症状に、咽頭結膜炎熱（プール熱）、流行性結膜炎などがあり、ウイルスのタイプによっては重症肺炎を引き起こす事があります。感染力が強く、集団感染を引き起こす危険の高いウイルスなので、迅速な診断が重要とされています。

【検査】



「四つ葉のクローバー」は当院のホームページ（インターネット）で公開しています。ご参照ください。ホームページアドレス <http://kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>